

二月三日

0500

72

極秘  
二七三

藤六一參甲第六號

冬季山岳作戰經過、概要提出(送付)

件通牒

昭和十七年一月十七日

第三十九師團參謀長山崎正男

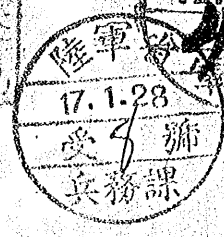
陸軍省副官川原直一殿

首題、件別冊、如夕提出(送付)ス

配布區分

- 陸省 2
- 參本 2
- 教總 1
- 陸英 1
- 科校 1
- 5 3
- 廣師 2
- ☆ 1
- 2310 1
- 2320 1
- 2330 1
- 39K 1
- 39A 1
- 39P 1
- 39T 1
- DTL 1
- 齒 1
- S 1
- 1FL 1
- 2FL 1
- PD 1
- 各部 5
- 13D 1
- 18Bs 1

山崎正男



1951

冬季山岳作戦戦闘經過概要



昭和十七年一月十五日  
澄田部隊本部

第三第四第五  
第三第四第五  
表圖錄

第一  
第二

目次

作戦準備	十二月二十九日	状況
戦鬪経過	十二月二十九日	状況
十二月三十一日	状況	
一月一日	状況	
一月二日	状況	
一月三日	状況	
一月四日	状況	
一月五日	状況	
一月六日	以降ノ状況	
交戦セシ敵ノ團隊兵方及結果		
交戦セシ敵ノ特性		
今次作戦ヨリ得タル教訓		

敵ノ反攻期間ニ於テ師團作戦地域内ノ討伐状況

# 冬季山岳作戦戦闘経過ノ概要

## 第一 作戦準備

一 師團ハ長沙作戦後其ノ經驗ニ基キ成シ得ル限リノ機動兵方ヲ掌握シ陣地ノ補強ニ努ムル等敵ノ反攻ニ際シ之ガ反撃ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ不斷ニ討伐ヲ勵行シテ作戦地域内ノ治安確保ニ任ジアリシ所十二月十三日ニ至リ軍ノ江南地區ニ對スル攻撃ヲ企圖ニ關スル通報ニ接シ次イデ十八日ニ至リ敵ガ十二月三十日ヨリ游撃的反攻ヲ企圖シアルヲ知ル

二 師團ハ最初敵ノ反攻ハ大規模ノモノニアラザルベシト判断シ從ツテ

各地區隊毎ニ行フ反撃ヲ依リ敵ノ企圖ヲ挫折セシムルヲ本則トシ  
 所要ニ應ジ師團ノ統一的反撃ヲ行フ如ク豫定セリ然ルニ漸次敵  
 ノ反攻企圖明瞭トナルマ到ル所應接ニ違ナキ結果ニ陥ランコト  
 ヲ慮リ長沙作戰ノトキノ例ニ倣ヒ先ヅ一方面ニ打撃ヲ加ヘ置クニ  
 如カズト爲シ當陽地區ニ攻勢ヲ取ルコトトセリ

三、當陽地區ハ長沙作戰ノ際ニハ諸般ノ關係上遂ニ攻勢ヲ取ルコト能  
 ハザリシ地區ニシテ其ノ守備隊ハ牌肉ノ數ヲ以テ其ノ他ノ地區ニ健  
 闘ヲ眺ムルノ已ムナキ状態ニ置カレタリ從ツテ今次ノ攻勢ニ方リテハ其ノ  
 發セガル先ヅチ早クモ敵ヲ吞ムノ概アリ

四師團ハ敵ノ反攻ノ機先ヲ制スル爲成ルベク速カニ攻勢ヲ取ラン

ト企圖セルモ十二月二十五日ヨリ實施セラルル隣接堤兵團ノ攻勢ニ  
策應スル爲歩兵約ニ大隊ヲ襄東地區ヘ派遣スル如ク準備シア

リシヲ以テ堤兵團ノ戦闘進捗ニ關シ或ル程度ノ見透シヲ獲シ

時期迄待機スルノ必要アルヲ認メ此ノ時期ヲ十二月二十七日豫定

ヒリ然ルニ同日ニ至ルモ派遣ノ必要生ゼザリシ爲直千ニ兵力集結

ニ關スル命令ヲ下達シ十二月二十九日中ニ諸準備ヲ完了セリ

五師團ノ攻撃發起ニ先ダテ敵第六戰區ノ游撃企圖漸次明瞭ト

ナリ殊ニ十二月二十七日ニハ即時反攻開始ヲ命ジタル旨ノ情報ニ

云

接シタルモ師團ハ沙洋鎮方面ニ對シテ八十里鋪地區隊ヲ該方  
 面ニ加フルコトニ依リ敵ノ反攻ヲ拒止シ得ルモノト認メ斷乎トシ  
 テ北方作戰ヲ遂行セリ

六、師團ノ作戰發起ノ際ニ於ケル當陽北方地區ノ敵情ハ洋坪附近ニ  
 第一七九師ノ三ヶ團、東學附近ニ第一三二師ノ一ヶ團、栗溪遠安  
 等ニ二部ノ敵アルモ一般ニ未ダ積極的行動ノ見ルベキモノナシ

七、之ヨリ先キ攻勢實施ニ關スル計畫成ルヤ作戰主任參謀ヲ當  
 陽地區及荊北地區ニ派遣シ作戰指導ニ關シ打合セヲ爲サンメタリ  
 作戰計畫ノ概要左ノ如シ

(一) 師團ハ敵蠢動ノ機先ヲ制シ東壘及洋坪附近ニ在ル敵第一三三師及第一七九師ヲ撃滅ス

(二) 荊北地區ヨリ抽出セル歩兵約ニ大隊(師團豫備タリシ歩兵半

大隊ヲ復歸セシム)山砲一大隊(一中隊欠)ハ堀大佐之ヲ指揮

シ右攻撃縦隊ト爲リ羅家集附近ニ兵カヲ集結シタル後

(三月三日自行動ヲ開始)

家河、栗溪、磨家坪、百昌ヲ經テ東壘ノ敵ノ側背ニ進出シ

次テ金和坪、巡檢司附近ヲ經テ洋坪附近ノ敵ヲ北方ヨリ攻撃

ス

(三) 當陽地區ヨリ抽出セル歩兵約ニ大隊半、山砲一中隊、迫撃砲一



大隊、兩前少將之ヲ指揮シ厄攻撃縱隊トナリ觀音寺附近  
 三兵カヲ集結シタル後十二月三十日行動ヲ開始シ一部ヲ以テ觀  
 音寺、栗溪、東鞏道ヲ、主カヲ以テ觀音寺、百里河、東鞏  
 道ヲ前進シ東鞏附近ノ敵ヲ東方及南方ヨリ攻撃シ次テ主カ  
 ヲ以テ横山河、張家橋、花栗崗道ヲ、一部ヲ以テ宋家口、  
 古錢洞、花栗崗道ヲ前進シ洋坪附近ノ敵ヲ東方ヨリ攻撃ス  
 (四)次テ遠安附近ノ敵ヲ索メテ攻撃シツツ原駐地ニ歸還ス

第二 戰鬥經過

十二月二十九日ノ狀況

一、堀大佐ノ指揮スル歩兵第二百三十三聯隊ハ第二大隊(一中隊欠)欠、

野砲兵第三十九聯隊第三大隊(一中隊欠)

野砲兵第三十九聯隊第三大隊ノ一中隊ハ山砲三門ヲ備ヘタス

工兵一小隊、衛生隊(約半部欠)ハ羅家集附近ニ大カヲ示シテシ泉溪、

東學方向ニ向フ前進ヲ準備ス

前北地區守備ヲ為シ第二大隊(一中隊欠)ヲ發置ヘル外新ニ指

揮下ニ屬セラレタス兵器勤務隊及輜馬騾重一小隊ヲシテ之ニ當ラシム

二、當陽地區ノ歩兵團長ノ指揮スル歩兵第二百三十三聯隊(第一大隊

第二大隊ノ約二中队欠

步兵第

二百三十一聯隊第一大隊(約二中队欠)、野砲兵第三十九聯隊第一大隊

第三大隊(一中隊欠)欠、野砲兵第三十九聯隊第二大隊、工兵第三十九聯隊第

二中队(一小隊欠)、衛生隊約半部、観音寺附近ニ兵力ヲ集結シ東學

方向ニ向テ前進ヲ準備ス

當陽地區守備ノ爲ニ八歩兵第二百三十一聯隊第一大隊約一中隊及歩

兵第二百三十三聯隊ヨリ殘置セル約一大隊及野砲兵第三十九聯隊第

一大隊ヲ之ニ當面ラシム

三沙市地區ヨリ抽出セル歩兵第三百三十一聯隊第五中队ハ自動車ニ依

リ工兵第三十九聯隊主力、師團司令部、第一野戰病院、師團病  
馬廠等ハ徒歩又ハ自動車ニ依リ黃家集、李家附近ニ集結ス

四、師團司令部八一三〇。荊門出發一五三〇李家ニ戰鬪司令部ヲ  
推進ス

### 十二月三十日ノ狀況

一、右攻撃縱隊ハ二十九日一九〇。羅家集出發姚家河ヲ經テ豫定ノ進路  
ヲ東鞏西北方地區ニ向ヒ前進ス

二、左攻撃縱隊ハ〇七三〇。松毛店及岑家壩附近ヲ出發一部杉山大隊長  
ノ指揮スル歩兵二中隊ヲ以テ松毛店―東溪―東鞏道ヲ、主力ヲ以

テ家ヶ家堰一丸山岡一東鞏道ヲ東鞏西測地蓋ニ向ヒ前進ス尙主  
力繼隊ハ遠井大隊長ノ指揮スル歩兵ニ中隊ヲ以テ漳河ニ沿フ地區ヲ  
宋家口ニ向ヒ前進セシム

三、師團司令部及豫備隊其他ノ師團直轄部隊ハ左攻撃繼隊主力  
ノ後方ヲ前進ス

四、右攻撃繼隊ハ正午頃東溪附近ニ於テ約五〇〇ノ敵ヲ攻撃之ヲ西北  
方ニ擊退シ夕刻主力ヲ以テ磨家坪ニ達シ引續キ東鞏附近ノ敵  
ノ退路ヲ遮斷ス

五、左攻撃繼隊ハ途中天台硯、顧麟硯附近ニ於テ一部ノ敵ヲ擊破シ

主力縦隊夕刻東嶽東南方戴家棚、樓子坡附近ニ陣地ヲ右領セル敵ヲ攻撃セルモ間モナク日没トナル

漳河ニ沿ヒ前進セル遠井大隊ハ此ノ日口泉ニ達ス

六師團司令部ハ夕刻七午河ニ達シ同地ニ宿營ス

七此ノ日新團司令部ニ進路ハ九里崗附近ニ於テ標高約一千餘米ニ達シタ

ルモ人馬ノ通過ニ稍々困難ヲ覺ユル程度ナリ然レドモ所々ニ無數

ノ阻絶壕ヲ掘開シアリ幸ニシテ阻絶壕ニ架シアル橋梁ノ破壊多

カラザリシ爲大ナル妨害トハナラザリキ

### 十二月三十一日ノ狀況

一右攻撃縦隊ハ難路ノ迂回ニ成功シ東嶽ヨリ仙居、劉候集方向ニ

向フ退路ヲ遮斷シ此ノ日朝東鞏北方地區ニ達ス

二 栗溪ノ經テ前進セル左攻撃縱隊ノ杉山大隊ハ途中一部ノ敵ヲ撃破  
 シツツ此ノ日朝東鞏東方曹家坂附近ニ達シ東鞏東側高地ニ陣  
 地ヲ占領シアル敵ヲ攻撃ス

三 左攻撃縱隊ノ主力ハ拂曉ヨリ攻撃開始ノ豫定ノ所前面ノ敵ハ拂  
 曉前ニ至リ退却セルヲ知り直チニ前進ヲ開始シ東鞏南側高地ニ陣  
 地ヲ占領シアル敵ヲ攻撃ス

四 各部隊ハ敵ヲ撃退シテ一〇〇〇乃至一〇〇〇間ニ相次デ東鞏ニ突入ス

五 東鞏附近ニ在リシ敵ハ約一ヶ團ニシテ西方ニ退却セルモノノ如ク東

擊附近ニ兵營、倉庫、通信線等若干ノ軍事施設アリ孰レモ之ヲ破壊・焼却セリ

六、師團ハ速カニ兵カヲ洋坪附近ニ推進シ該地附近ニ在ル敵ノ撤退ニ先ダチ之ヲ撃破スル爲各攻撃隊ヲシテ豫定ノ進路ヲ夫々洋坪西方及洋坪東南方地區ニ向ヒ前進セシム

七、各攻撃隊ハ直チニ一部ヲ先遣スルト共ニ主力ヲ以テ追撃ニ移ル

八、右攻撃隊ハ大道場附近ニ於テ逐次ニ退却ヲ掩護シツツ退却シア  
ル敵ヲ攻撃ス敵ハ天險ヲ利用シテ逐次ノ抵抗ヲ試ミ遂ニ日没トナル

九、左攻撃隊ハ東嶺西南方羊角山ノ天險ヲ突破スル爲終夜行軍



ヲ續行シ未明横山河南方ト覺見シキ地點ニ達ス

一〇、漳河ニ沿ヒテ派遣セラレタル左攻撃隊ノ遠井大隊ハ本夜横山河附近ニ達ス

一一、師團司令部ハ〇七三〇七斗河出發東鞏嶺南方ニ於テ戰鬥ヲ指揮シ次  
テ左攻撃隊ニ續行シ同夜〇三〇〇頃横山河南方附近(？)ニ達

シ火休止ス

一二、野戰病院ハ栗溪、東鞏嶺附近ノ傷者ヲ擔送シ羊角山ノ險ヲ突

破シタル爲漸ク疲勞甚ダシク本夜ハ羊角山ノ中腹ニ露營セリ

一三、羊角山ハ標高千米餘ナルモ登斜面ハ溪谷、崖、石段等多ク殊ニ

頂上ニ近キ部分ハ連續五百米許リノ石段ニテ馬匹ノ通過至難ナリ  
 降斜面亦全然道ナキ急坂ニ道ヲ作りツツ下ル狀況ニテ東鞏以西ノ  
 行程ハ師團長以下全員徒步ニテ標高千米ノ險峻ヲ突破セリ

一月一日ノ狀況

一 右攻撃縱隊ハ宋家口、金和坪附近ニ於テ歩々ノ抵抗ヲ爲セル敵ヲ  
 突破シツツ前進ス

敵ハ豫期セガル急遽ニ狼狽セルモノノ如シ

二 左攻撃縱隊ハ横山河、張家橋、花栗山崗道ノ馬匹ノ通過ニ適セガルノ  
 情報ニ接シ主力ノ進路ヲ宋家口、古鏖洞、花栗山崗道ニ變更シ昨

夜ノ宿營地ハ其ノ圖上位置明カナラザルモ兎ニ角漳河河畔ニ出  
 テタル後同河ニ沿ヒ宋家口ニ向フベク決心シ前進ヲ開始ス然ルニ相  
 當ニ迂路ヲ取リタルモノノ如ク本夜漸ク七里廟ノ峠ヲ突破シ劉  
 姓溝河谷ニ達スルヲ得タルニ過ギズ

三師團司令部ハ左攻撃縱隊ノ後方ニ於テ難路行軍ヲ晝夜ニ互  
 リ續行シ未明ノ四三ノ頃宋家口附近ニ達シ同地ニ大休止ス

四野戰病院ハ此ノ日ノ難路行軍ニ愈々主カトノ距離長大トナリ東  
 鞏附近ノ敵ヨリ背後ヲ攻撃セラルル虞ヲ生ジタルヲ以テ杉山大隊  
 長ノ指揮スル歩兵一中隊ヲ以テ之ガ掩護ニ任ゼシム

五此ノ日左攻撃總隊主力ノ進路ハ漳河ノ畔ニ出ツル迄ハ昨日ニ劣  
 ラザル溪谷ヲ通ズル悪路ニシテ全員徒歩行軍ニ依リ突破シ漳河  
 ノ畔ニ出ツル迄ニ實ニ三時間ヲ要セリ漳河ノ畔ノ道路ハ圖上ニナ  
 キモ比較的良道ナリ宋家口南方ニ一箇所相當ノ急坂アリテ行軍  
 ヲ妨害セリ

一月三日ノ状況

一右攻撃總隊ハ晝夜兼行敵ヲ急追シテ本日〇二〇〇巡檢司ニ達  
 シ引續キ先遣隊ヲ百佛頭方向ニ派遣シ主力ハ直路洋坪ニ向テ進  
 中紫山坪及百佛頭附近ニ於テ一部ノ敵ヲ撃破シツツ銳意前

進ヲ續行シ夜二一三〇洋坪ニ進入ス

右攻撃隊ニ急追セラレタル敵ハ結局紫山附近ニ於テ山中ニ逃避

セルモノノ如シ

二左攻撃隊ハ花栗崗附近及紅岩寺附近ノ天險ニ據レル敵ヲ撃

破シツツ前進シ今夜洋坪東側地區ニ達ス

三師團ハ洋坪附近ニ於テ統一戦闘ヲ指導シテ敵ヲ一擧ニ捕捉殲滅

セント企圖シ命令ヲ下達スル所アリシモ洋坪附近ノ敵ハ已ニ退却

セルガ如ク徐家棚附近ニハ尚一部ノ敵アルモノノ如シ

四師團司令部ハ大休止四時間ニシテ〇九〇〇宋家口出發七里廟ノ

險ヲ征服シテ夕刻花栗崗ニ達シ同地ニ宿營ス

五、野戰病院ハ師團司令部ノ後方四時間行程ニ迄追及ス

六、本日ノ進路ハ七里衝ノ峠アリシモ難路通過ニ習慣付ケラレタル將

兵ニ大ナル苦痛モナク比較的容易ニ之ヲ突破シ劉姓溝谷地ニ入

レハ道路ハ漸次良好ト爲レリ

七、携帶糧秣ハ本晝食ヲ以テ終レルモ平地ニ近付クニ從ヒ地方物資

豊富ナルヲ以テ給養ニ付テハ何等憂慮スベキモノナシ

一月三日ノ狀況

一、師團ハ洋坪附近ノ敵ヲ逸シタルヲ以テ一擧ニ遠安方向ニ突進シ同

地附近ニ於テ最後ノ敵ヲ捕捉セント企圖セシモ野戰病院ノ追  
 及ノ關係上全カヲ以テ直チニ南下スルコトハ暫ク之ヲ見合セ先ツ  
 右攻撃縱隊ノミヲ遠安方向ニ派遣シ其ノ他ノ主力ハ之ヲ徐家棚  
 東南方地區ニ集結スルコトセリ是レ野戰病院ノ掌握ヲ確實  
 ナラシムルト共ニ若シ山地方面ニ退避セシ敵ガ攻勢ニ轉ジ來ルコ  
 トアラバ直チニ之ヲ邀ヘ撃タントスル希望モ之ヲ抱懷シアリシナリ  
 ニ昨夜洋坪ニ進入セル右攻撃縱隊ハ玉皇閣及徐家棚西方隘路  
 口附近ノ高地ニ敵アルヲ知り本早朝ヨリ攻撃ヲ開始シ一五〇〇頃  
 之ヲ隘路内ニ撃退シ夕刻徐家棚附近ニ其カヲ集結ス

三左攻撃継隊ハ洋坪東側地區ヲ出發 往家棚東方地區ニ兵カヲ集結  
スルト共ニ所要ニ砲兵一部ヲ右攻撃継隊ノ左翼ニ派遣スル準備  
ヲ爲スト共ニ砲兵ヲ以テ之ニ協力セリ

當陽方面ヨリ師團主力ノ戦闘ニ協力スル爲北上セル久保大隊長ノ指  
揮スル歩兵二中隊ヲ掌握セリ

四右攻撃継隊ハ爲撃退セラレタル敵ハ隘路内深ク遁入シアラザルが如  
キモ一般ノ敵情ハ敵ノ反撃ヲ豫想セシメラルルモノナリ又野戰  
病院ノ追及モ概ネ顧謫ニシテ夕刻ニハ洋坪ニ到達スル距離ニ在  
ルヲ以テ師團ハ速カニ遠安方向ニ前進スル爲豫定計畫ヲ遂



更シ本日戦闘ヲ實施セザリシ爲此戰的出發ノ容易ナル左攻撃  
 縦隊ヲ先遣シ右攻撃縦隊ハ之ヲ徐家棚附近ニ集結セシム

五 師團司令部ハ早朝花栗崗出發洋坪ニ於テ戰鬥ヲ指揮シ夕  
 刻徐家棚ニ到リ同地ニ宿營ス

六 徐家棚、官家巷子附近一帶ハ敵ノ兵營地區ナリシガ如ク到ル  
 所ニ兵營、倉庫、彈藥庫アリテ縱横ニ通信網ヲ構成シアリ又  
 師部、師長官舎ト覺シキモノアリ然レドモ陣營具、格納品ハ  
 殆ンド全部持チ去ラレアリ依ツテ之等ヲ破壊、燒却シテ敵ノ根據  
 地ヲ覆滅セントシ本夕刻ヨリ破壊、燒却ノ擔任ヲ定メ一齊ニ實

行セシメタリ

七、徐家棚附近ノ軍事施設ヨリ判断スレバ同地ニハ相當ノ兵力駐屯シ  
アリシガ如ク第七九師師部ノ在リシコトハ「歡迎何師長」

「歡迎第七十九師」等ノ貼札ニ依リ明カナリ從來ノ密偵報及  
土民ノ言ニ依リ約三ヶ團ノ駐屯シアリシコトモ、或ハ眞ナランカ

八、敵ハ洋坪、徐家棚附近ニ迄日本軍ガ攻撃シ來ルコトハ夢想必ニセ  
ガリシガ如ク同平地周囲ノ山地及隘路口等ニ何等ノ防禦設  
備ナク兵營ニモ全然直接防禦ノ設備ヲ施シアラズ

九、敵ハ我ガ放膽ナル作戰ニ依リ防禦施設ナキ根椽地ニヒ首ヲ

擬セラレタル形ニテ全ク反撃ノ氣カラ失ヒ周章狼狽西方山地内ニ遁入シ又洋坪東方ノ我が前進路ニ對シテハ形式射ニ一部ノ兵力ヲ派遣セシニ過ギザルガ如シノ又洋坪北方百佛頭ニ於テ右攻撃縦隊ノ爲撃破セラレタル敵ハ北方ニ退却セルモノノ一部ニアラズヤト判断セララル

一、右攻撃縦隊ノ進路ハ金和坪以西ハ概ネ良好ナリ左攻撃縦隊ノ進路ニ於テハ紅岩寺ノ隘路ニ到リ圖上判断ト全ク異ルモノアリ即チ其ノ洋坪平地ハノ出口ハ數百米ノ絶壁ト急坂トニ挟マレタル天險ニシテ所謂「一夫關ニ當レバ……」ノ要害ナリ敵ハ一部ヲ以テ

之ヲ拒止セシメタルモ我ガ左攻撃縦隊ハ數百米ノ絶壁上ヨリ垂直  
 揮ヲ以テ壘壁ニ據レル敵ハ防禦設備ヲ爲シアラザル爲掩蓋  
 ナシテ攻撃シテ之ヲ撃退セリ

一月四日ノ狀況

一左攻撃縦隊ハ夜半 官家巷子附近ヲ出發遠安ニ向ヒ前進シ  
 敵ヲ索メテ攻撃ス

同縦隊ハ遠安北方高地ニ在リシ約ニ三百ノ敵ヲ撃退シ引  
 續キ夜行軍ヲ續行シ原駐地ニ歸還ス

二野戦病院(杉山大隊長指揮スル歩兵一中隊ヲ附シアリ)、師團

司令部等ハ〇三三〇乃至〇五〇〇ノ間ニ徐家棚附近出發遠  
 安ニ向フ途中舊縣附近ニ於テ追撃砲ヲ有スルニ三百ノ敵ヲ  
 撃退シ同地ノ兵營ヲ燒却シ夕刻遠安ニ達ス

三右攻撃縱隊ハ師團司令部ノ後方ニ在リテ殘敵ヲ掃蕩シツ  
 ツ前進シ夕刻遠安附近ニ達シ大休止ス

四師團ハ完全ニ作戰目的ヲ達成シ又敵ノ近ク追尾スルモノナキヲ  
 以テ遠安附近ニ宿營スルヲ適當トスルガ如キモ當時ノ天候日  
 ニ險惡トナリ降雨ノ爲原駐地歸還ノ自動車輸送ヲ妨害セ  
 ラレンコトヲ慮リ遠安附近ニ於テ若干ノ大休止ヲ爲シタル後夜

行軍ヲ續行シ原駐地ニ歸還スルフトセリ

五、遠安附近ニ於テハ當陽方面ヨリ前送セル糧秣ニ依リ給養

セリ

一月五日 狀況

一、左攻撃縱隊ハ〇〇〇當陽附近ニ到着シ夫々原駐地ニ歸

還セリ

二、師團司令部其ノ處ハ正午頃官田場附近到着シ師團司令

部ハ直子ニ荊門ニ歸還ス

三、右攻撃縱隊ハ官田場附近ヨリ自動車ニ依リ原駐地ニ輸送セラ

レ其ノ主力ハ二〇〇〇頃ハ駐地ニ歸還ス

四野戰病院及其ノ擔護カハ一五〇〇乃至一七〇〇頃我カ警備地域  
内ニ入り患者ハ直チニ自衛班ニ依リ當陽病院ニ收容セリ

一月六日以降ノ狀況

各部隊ハ徒步行軍又ハ自動車輸送ニ依リ逐次原駐地ニ歸還  
シ一月八日概テ之ヲ完了セ

第三 交戦セシ敵 團隊號、兵力及戰果

交戦セシ敵ノ團隊號、兵力及戰果附表ノ如シ

#### 第四 交戦セシ敵軍ノ特性

一 敵ハ精神的衝撃ヲ受フレバ反撥ノ氣カヲ失フガ如シ師團カ東鞏附近ヨリ洋坪平地ニ進出スル迄ニハ豫想外ニ多クノ時間ヲ要シタルヲ以テ有爲ナル敵ナラバ我ノ洋坪附近ニ於ケル隘路進出ニ察ジ各個撃破ノ舉ニ出ツベク地形亦之ニ恰適ナリシニ拘ラズ遂ニ無爲ニシテ洋坪平地ヲ我ガ蹂躪ニ委シタリ是レ我ガ放膽ナル作戦ガ全ク敵ノ意表ニ出デタル爲彼ハ精神的ニ大衝撃ヲ蒙リ金ク反撃ノ氣カヲ失ヒタルモノト判断ス

ニ 敵ハ比隣相應援スル旨意ヲ缺クノミナラズ一方向ノ受ケタル衝撃



ノ餘波ヲ蒙リ其ノ他ノ正面ニ一様ニ潜伏スルガ如シ今次當陽北方地  
 區ニ作戰シアル間内山兵團ノ北正面ノ敵及我カ荊北正面ノ敵ハ  
 全々鳴ラ鎮メテ殊ニ荊北正面ノ敵ハ  
 東葉方面ノ砲聲ガ山谷ニ研シテ極度ニ右側背ニ脅威ヲ感ジタル  
 ガ如シ尚敵ノ游撃行動ガ我ノ北方作戰中ハ極メテ消極的ニシ  
 テ我ノ原駐地歸還後ニ於テ寧口活潑化セルガ如キモ自ラ陣地  
 内ニ於ケル危險ノ解消セル後ニ於テ漸ク本格的游撃ヲ開始  
 セル爲ニアラザルカ

三 敵ハ根據地ヨリ遠ク逃避スルコトナシ從來日本軍ノ作戰ハ作戰  
 目的ヲ達スレバ原駐地ニ引キ揚グルラ通常トセシラ以テ敵ハ根據

地至近ノ距離ニ退避シ日本軍ノ微退後容易ニ引キ返シ得ル如ク企圖シアルガ如シ而シテ斯カル敵ノ常套手段ニ對シ鐵槌ヲ加ヘタルモノハ右攻撃縱隊ノ大道場、宋家口、金和坪、追擊戰鬥ニシテ敵ハ我カ急追ノ爲遂ニ山中ニ逃避スルノ已ムナキニ至レルガ如シ尚徐家柵西方隘路口附近ノ戰鬥モ此ノ例ニ漏レザルモ遺憾ナラ地形ノ關係上徹底的打撃ヲ與フルヲ得ザリキ

四敵ハ之ヲ誘致セントスルモ容易ニ追尾シ來ラズ徐家柵附近ニ於テハ敵ノ追尾シ來ルアラバ之ニ反撃ヲ加ヘント企圖セルモ其レラシキ氣色モ之ヲ認メラレザリキ又野戰病院カ宋家口附近ヲ通

過スル際泉聲附道ノ敵ヨリ背後ヲ衝カルルコトヲ懸念シア  
 リシモ其ノコトナクシテ好都合ナリキ然レトモ通路ノ側方ニ陣  
 地ヲ占領シ通過部隊ヲ妨害スル敵ハ一應之ヲ撃退スルモ再  
 ビ現出シテ次ノ通過部隊ヲ妨害スルヲ常トセリ

五、敵ハ彼我中間地帯及彼ノ第一線後方近距離ニハ到ル所阻絶  
 壕ヲ設ケ之ニ輕易ナル橋梁ヲ架シ所要ニ際シ橋梁ヲ破壊シ  
 テ我カ前進ヲ阻止セント企圖シアリシガ如シ幸ヒ我カ急進ニ依  
 リ悉ク之ヲ破壊スルノ餘裕ナカリシモ之等ヲ全部破壊セラレシカ  
 我カ行進ハ著シク妨害ヲ蒙リタルベシ敵ハ或ハ爾後ノ使用ニ供

センガ爲故意ニ破壊ヲ見合セタルモノトモ判断セラル

六本作戰間一月一日漳河ニ出ヅル山間ニ於テ珍ラシク飛行機ノ爆

音ヲ聞ク反軍機ニ比シ稍々異様ノ爆音ヲ發シアリシモ恐ラク

反軍機ナラント判断シ對空布板ヲ布置シテ準備シアリシモ

遂ニ飛行機ノ姿ヲ見ズシテ終レリ其ノ後ニ至ルモ軍司令部ヨ

リ飛行機派遣ノ通報ナキヲ以テ恐ラク敵ノ飛行機ナリシナラン

老河口附近ノ飛行機カ師團ノ進路ヲ確ムル爲飛來セシニア

ラガルカ友軍機ノ協力ナキ作戰ニハ時ニ敵機ノ來襲アルヲ豫

期シアルヲ要ス

- 七、敵ハ夜間我カ進路ニ近キ民家ヲ突上セシメテ其ノ火焰ニ投影スル我カ軍ヲ目標トシテ射撃シ來レルコトアリ又偽地雷ヲ設置シ之ヲ避ケテ迂回前進スル我カ軍ヲ射撃シ來レルコトアリ
- 八、敵ハ非常ナル簡易生活ヲ爲シアルガ如ク土民ノ言ニ依レバ我カ軍ノ占領スル前日迄敵兵ノ在リシトイフ兵營ガ既ニ一物モ殘サズ清掃セラレアルガ如キ全ク其ノ簡易生活ニハ驚カサルモノアリ
- 之ト同時ニ倉庫ノ格納品ノ數量モ極メテ少量ニシテ短期間ニ搬出シ得ル範圍ヲ出テザリシコトヲ察知シ得ベシ敵ガ屢々防務ヲ交代シ其ノ他部隊ノ異動ヲ輕易ニ實施シアルハ一ニ此ノ

簡易生活ニ依ツテト謂フベシ

九、敵ハ日常圖上ニ記載ナキ道路ヲ使用シアルガ如シ即チ圖上ニアル道路ハ日本軍ガ進攻ノ際利用スル虞アルヲ以テ故ラニ之ガ使用ヲ避ケ圖上ニナキ間道ニ據リアリシモノト判斷セラル從ツテ捕獲セル俘虜ニ就キ訊問スルニ彼等ハ圖上ニアル道路ニ付イテハ記憶ナク爲ニ彼等ヲ道案内ト爲スニ足ラザル不便ヲ感ジタリ

## 第五 今次作戦ヨリ得タル教訓

一山地作戦ノ計畫ハ尙密ナルヲ要ス今次作戦ハ敵ノ反攻時期ノ關係上僅カニ數日間ノ準備研究ノ後直チニ實施ニ移レル爲準備ノ周到ヲ缺キ殊ニ兵要地誌ノ調査ニ遺憾ノ點多ク豫定ト實施トノ間ニ相當ノ差異ヲ生ジタリ今次ノ如キ規模ヲ以テ山地作戦ヲ遂行セントスレバ尠クモ一ニヶ月ノ準備期間ヲ設ケ謀者ノ派遣ニ依ル兵要地誌ノ整備茲ニ之ニ基ク編成裝備ノ研究、給養衛生ニ關スル準備ヲ完カラシムルノ著意ヲ絶對必要トス

二、今次作戰ヲ完遂シ得タル素因ハ將兵ノ堅忍持久ニ負フ所多

シト雖モ (一) 天候ニ恵マンタルコト (二) 滿月ノ前後ニ作戰シ遺憾ナ

ク月朔ヲ利用シ得タルコト (三) 糧ヲ敵地ニ求ムルヲ得タルコト

(四) 冬季ナリシコト (五) 山地ハニ於ケル敵ノ抵抗頑強ナラザリシコト

等ヲ擧グルコトヲ得ベシ而シテ作戰實施ノ跡ヲ顧ミルトキ

乃ノ要件ノ若干ヲ銀カンカ如何ニ周到ナル準備ヲ整ふるモ今

次ノ如キ迅速ナル作戰ハ之ヲ遂行シ得サルベク以テ如何ニ師團

が天祐ヲ保有セシカラ察スルニ足ル

三、山地戰ニ於テハ道路ヲ誤ラサルコトヲ最大要件トシ各部隊



ハ進路ヲ誤ラザルコトニ關シ凡百ノ努力ヲ傾注スルヲ要ス今  
 次作戰間左攻撃縱隊ハ十二月三十一日夜羊齒山頂ニ於テ進路  
 ヲ誤リ同夜ノ大休止地點ハ結局圖上ニ標定シ得ズシテ終レ  
 リ之ガ爲左攻撃縱隊ノ洋坪平地進出ハ約半日遅レタルノミナラ  
 ズ非常ナル難路ニ遭遇シ無用ノ徒勞ヲ爲セリ  
 今次ノ作戰地ノ住民ハ悉ク逃避シアリシ爲住民ニ付道路ヲ確ル  
 コトヲ得ズ又村落ニハ所標ナク縦ヒコレアルモ新行政區劃ニ依ルモ  
 ノニシテ地圖判讀ノ資料ト爲スニ足ラズ進路ノ保持ニハ谷部隊此  
 非常ナル困難ヲ嘗メタリ

四 行軍殊ニ難路行軍及夜間行軍ノ際幹部トシテ注意スベキ

事項ニ關スル訓練ヲ徹底スルヲ要ス今次作戦ニ於テ兵ハ遠  
 憾ナク堅忍持久ノ精神ヲ發揮シ其ノ行軍力亦概ネ満足スル

ニ足ルコトヲ確認セリ然ルニ難路通過、夜間行軍等ニ當リ各

級幹部特ニ中小隊長トシテ如何ナル著意ヲ必要トスルヤ或ハ

如何ナル處置ヲ要スルヤ等ニ關スル訓練不十分ナリシ爲一局

部ノ不注意ニ依リ連絡ヲ失シ或ハ行進ヲ遲滯セシメタルコト一再

アラズ幹部トシテ注意スベキ事項ノ二三ヲ摘記スレバ左ノ如シ

(一) 今次作戦地ノ如キ遠路不良ノ地ニ於テハ道路標識ヲ絕對必要

トシ豫メ標識用紙ヲ準備シアルヲ要ス用紙不足ノ爲傳單  
ヲ使用セル部隊アリ尚標識ノミテ不十分ナル場合ニハ標兵  
ヲ殘置スルヲ要ス

(二) 難路通過ノ要領ハ之ヲ後方部隊ニ申送ルヲ要ス後方部隊ハ又  
所要人員ヲ先遣シテ通過要領ヲ視察セシムルノ着意ヲ付  
要トス馬匹部隊ニ於テ特ニ然リトス

(三) 夜間殊ニ疲勞ノ加フルニ從ヒ連絡ヲ失セザルコトニ注意スル  
ト共ニ落伍兵特ニ假眠等ノ爲殘留兵ヲ生セザルコトニ全備  
ノ注意ヲ拂フヲ要ス

五、軍隊ノ機動力ハ指揮官ノ意志ニ依リ左右セラルルコト多シ今次  
 作戦間大部分ノ部隊ハ遺憾ナク機動力ヲ發揮シテ山岳地帯ノ  
 大迂回作戦ヲ完遂セリ然レドモ一、二ノ部隊ニ於テハ其ノ堅忍  
 持久性ニ於テ遺憾ノ點ナシトゼス而シテ其ノ多クハ指揮官ノ意志  
 堅確ナラザルニ起因スルガ如シ

六、統一セル戦闘指揮ヲ爲シ得レル山地戦ニ於テハ銃砲聲ノ緩急  
 ノ度ハ高等司令部ニ於ケル戦況判断ノ有力ナル資料ナリ從  
 ツテ各部隊ハ状況ニ適合セル射撃速度ヲ以テ戦闘ヲ遂行ス  
 ルコト所要ナリコノ著意アラバ進イテハ強薬節用ノ目的ニモ

合スルモハトス今次作戦中ニ於テ相當劇烈ナル銃砲聲ヲ  
 聞キ爲ニ司令部ニ於テハ激戦中ト判断シアリシニ拘ラズ其ノ後  
 ノ報告ニ依レバ必ずシモ然ラザリシヲ知り彈藥ノ浪費ヲ惜シミ  
 タルコトアリキ

七戦陣道徳ヲ涵養スルヲ要ス今次作戦ニ於テ敵ノ兵舎、倉  
 庫等ハ之ヲ焼却スル如ノ命令セルモ之ガ徹底不十分ニシテ一般  
 民家ニシテ焼却セラレタルモノ相當アリ大休止ノ際ニ於ケル焚  
 火ノ跡殆末ノ不良ニ起因スルモノ多カルベシト雖モ放火ニ依ルモ  
 ノ亦尠シトセザルベシ尚道路ニ接スル家屋ヲ焼キタル爲後方

部隊ノ前進ヲ阻害セシフト屢ニナリキ物資ノ徵發要領ニ付  
イテ三戒飭ヲ要スルモノアリ

ハ秋冬季等ノ收穫期ニ於テ平地方面ニ作戰スル場合ニ於テハ準備糧秣以上ノ日數ニ互ル作戰敢テ不可能ニアラズ今次作戰ハ四乃至五日ノ準備糧秣ハ遠安ニ於テ補給セルモノヲ含ムコトヲ以テ七日間ニ互ル作戰ヲ實施シタルモ地方物資豊富ナリシ爲糧秣ノ不足ヲ感ジタルコトナシ特ニ馬糧ニ於テ然リ任シ糧ヲ敵ニ取ル爲ニハ(一)同一地ニ數日ニ互リ停止セザルコト(二)敵情ガ物資ノ徵發ヲ許スコトヲ絕對要件トス

九、今次作戰地域ノ地圖ハ極メテ不正確ナリ一般ニ二條實線路、  
 片點線路、點線路ハ不十分乍ラ概ネ道路ノ程度ヲ示スニ足  
 ルモノト認ムルモ山地、村落、河川等ハ全ク信ヲ措クコト能ハズ  
 殊ニ十分一圖一五十分ノ縮刷ニアラズノ地貌ハ不正確ナリ溪谷  
 ノ細流モ百米ニ近キ河幅ヲ有スル河川モ同ジク一本ノ線ニテ描  
 カレアルガ如キ、紅岩寺附近ノ絕壁が極メテ緩徐ナル斜面ノ如  
 ク描カレアルガ如キ、漳河ニ沿フ相當良好ナル道路が圖上ニナ  
 キガ如キ孰レモ常識ヲ以テ判斷シ得ザル所ナリ從ツテ進路ノ判  
 定、地點ノ標定等ニ當リテハ局部的判斷ニ促ハルルコトナク大

局ノ地形判斷ヲ其鍵トシテ地圖ノ判讀スルコト必要ナリ而シテ若シ地圖ガ完備セラレテハ、ハシチラバ恐ラク今次作戰ハ之ガ斷行ヲ躊躇セシオラントハ作戰終了後ノ所感ナリ尙山地通過ニ於テ經驗セル二三ノ點ヲ掲記スレバ左ノ如シ

一 山谷内ノ急坂ニハ到ル所石段ナルコトヲ豫期セサルベカラズ又溪谷内ニ於テハ大小ノ岩石壘々タル河床ヲ通過スル場合多

二 山腹道ニ於テハ側壁ガ道路ニ阻レル爲駄馬ハ駄籠品ヲ側壁ニ衝突セシメテ行進不能ニ陥ルコト多シ



一、苦力ノ体力ハ驚異ニ價ス今次作戰ニ於テハ衛生隊及野戰病  
 院ハ苦力ヲ以テ患者ノ搬送ニ當ラシメタリ此ノ患者ヲ搬行シツ  
 ツ戰鬪スルコトハ師團ノ作戰ヲ拘束スルコト甚大テリシト雖モ  
 搬送ニ任ジタル苦力ハ体力絶倫ニシテ疲勞困憊其ノ極ニ達シ涼  
 ヲ流シ悲鳴ヲ發シツツモ遂ニ最後迄患者ノ搬送ヲ全ウセリ  
 送期間正ニ七ビナリ

